

通所施設サポートの取組

① ラポールみなみ

(社会福祉法人 静岡手をつなぐ育成の会) 23

② あすたす

(特定非営利活動法人 POPOLO) 28

③ もえり清水

(特定非営利活動法人 もえり) 31

④ やんちゃりか

(特定非営利活動法人 たからじま) 33

① ラポールみなみ（社会福祉法人 静岡手をつなぐ育成の会）

▶ 事業所の基本情報

事業形態	就労継続支援B型	定員	20人
------	----------	----	-----

▶ 対象者（Cさん）の基本情報

性別	男性	年齢	20代前半
----	----	----	-------

月の契約日数	23日	月の利用日数	23日
--------	-----	--------	-----

事業所の利用年数（サポート事業利用開始日時点）	2年
-------------------------	----

課題となっていた行動

日頃から周りのいろいろなものに興味を持って突発的な行動を起こすことがよくありました。衝動的に相手に向かってツバ吐きを行う、事業所の備品を投げつけて破壊する、突然大声を出して興奮状態になった際に他害行動（周りの人をつねったり、噛みつくなど）や、周りの物を投げつける行動を起こしてしまうといったことがエスカレートするようになっていました。

▶ 通所施設サポートについて

サポート利用期間 1年6か月（令和元年7月3日～令和2年12月末）

サポートを受けようと思ったきっかけ

Cさんの行動により、他の利用者も不安定になって連鎖反応を起こしてしまうことや、事故につながってしまうことが多くなっており、そのことに対する効果的な支援方法がなかなか見つからない状況でした。日中に事業所でCさんが気持ちを安定させて過ごしていくための支援方法を検討するための助言を受けたく、サポート事業の申請を行いました。

サポートの経過

基本的には日々の記録をとりながら、その問題行動が起きる要因を分析して支援方法を考えて進めていきました。**問題行動が起きるときの機能**としては主に、①**要求行動**、②**回避行動**、③**注目行動**、④**自己刺激**の4つの機能に分類されることが多いので、どの機能によって起きているものなのか、また時間帯やその前後にあったことなどを通して、**その行動が起きる要因や条件になっているものが何か考えていきました**。また、安定剤の定期的な服薬を始め、興奮時に処方する薬を事業所で預かっていたときには服薬と行動の関連性も記録していきました。

支援環境の改善

移転前の事業所でCさんが好んで座っていた席は全体が見渡せる場所にあり、刺激を受けやすく、また求めていきやすい環境でした。現在の事業所に移転する際に、**壁向きで刺激の少ない席を設定し、刺激しやすい利用者とは部屋を分けるなど構造化**を図り、落ち着いて過ごせる環境を作っていくように検討していきました。



↑ 移転後の事業所での座席。壁向きにし、刺激を統制。

出勤時間の調整

日中に大声や他害等の行動を起こした際、早退の対応をとることにより最後まで居られないことが頻繁に続いたため、アドバイザーから「早く帰るために行動を起こしていた面も考えられるので、終わりの時間まで居られる経験を積み直していくことを重視した方が良い」と助言を受けました。そのため、**出勤時間を短くして最後まで居られる成功体験を積み上げる**こととしました。最初は終了30分前の15時半の出勤から始めて、徐々に時間を伸ばし、正午過ぎから出勤し、昼食を食べるところから始めるようになりました。

コミュニケーションツール、スケジュール



↑ 気持ちに関するカード

問題行動を起こしてしまう背景には、①**自分の気持ちや要求を上手に伝えられる手段を持っていないこと**、②**自分のやることやスケジュールの見通しが持てていないこと**が考えられました。そのため、問題行動を起こす前に自分の意思を伝えられるよう気持ちに関するカードや、見通しを持って過ごすために1日のスケジュールを用意する取組も行いました。

作業についても決まった作業を行ってもらう方が見通しを持って取り組めるのではないかと考えられたため、Cさんが比較的落ち着いて取り組めていた一貫張り作業を固定して取り組んでもらうようにしました。1回の作業で貼る枚数を決めて台紙に置くようにして、作業が終わったら報告して休憩する流れを設定し、自分から取り組んでもらうようにしていきました。



↑ スケジュール



↑ 一貫張り作業

作業や休憩時の過ごし方の選択

いくつか選択肢を提示して自分が選んだ作業をしてもらうようにしていくことや休憩時間についてもどのように過ごすか選択してもらうなど、Cさんが**自分で選択して考えていくための働きかけ**などに取り組みました。



↑ 休憩時間の活動の例

サポートを受けて変化したこと

〈Cさんや他の利用者〉

当初はCさんの行動により、刺激を受けやすい他の利用者の方が連鎖的に不安定になってしまうことが多くありました。構造化を図り、利用者同士が刺激を受けることが少ない環境作りや、Cさんに対する職員の付き添いの徹底、24ページの取組などに努めていく中で、**連鎖反応を起こすことが少なくなり、お互いに落ち着いて過ごせるようになりました。**

〈スタッフ〉

サポート事業を受けながら、職員会議などで検討を重ねていく中で、

- ① 行動につながってしまう要因などの検討
- ② その要因を取り除いて落ち着いて過ごせるための環境作り(職員の付き添い体制なども含めて)
- ③ ②を行っていくための職員の体制作り(丁度この時期に職員体制の増加を図ることもできたこともありました)
- ④ 利用者とのコミュニケーションを成立させていくための取組などを通して職員同士の連携を図っていけるようになりました。

サポートを受けてみて

現時点で根本的な解決はまだまだ難しく、新しい課題が出てくることも多い状況ですが、このサポート事業を通して、**記録などを行っていく中で問題行動の起きる要因を分析して、そのことに対する支援方法を考えて進めていくことがとても大切なことだと感じられました。**そして、アドバイザーの助言をもとに、構造化を含めて落ち着いて過ごせる環境作りのために必要な支援について検討を重ねていく中で、**事業所の利用者全体の安定に少しずつ繋がられています。**新しい課題が出てきたときも同様に職員間で検討を行って改善に向けた取組をしていけるよう努めていきたいと思えます。

▶ アドバイザーより

最初の相談時から課題となっていた行動が変化してきていましたが、記録を取ってもらいながら、進めていきました。また、課題となる行動についての捉え方や、コミュニケーションを増やしていく事の説明なども、訪問時に話し合いました。

噛みつきなどによる他害行動は、職員さん達を疲弊させるため、まず何とか減らせるようにと考え、家庭との連携(自宅での様子の聞き取り、服薬などの協力や理解など)もお願いし、来所時間の変更など柔軟に対応してもらいました。(ちょうど訪問時に、激しい他害行為のあった際に立ち会えた事と、ご家族にも直接お話しできたことも結果的には良かったと思えます)

現在は、服薬との関係は未確認ですが、他害行為については減少、事業所での作業量は一定になっています。

今後は支援方法を次の段階へ移行するタイミングを見ながら、事業所の日課や集団活動に少しずつ参加していけるようになっていけると思えます。

サポート事業とは

入所施設サポート

通所施設サポート

強度行動障がい支援の
まずはここ！

↓ツバ吐き、物の破壊、噛みつきなどの行動の状況、時間帯について記録。

日付	ツバ吐き	物の破壊	噛みつき等他害		作業内容	備考
	出勤～昼休み (12時過ぎ～13:10)	午後作業～休憩前 (13:10～14:30)	休憩、掃除 (14:30～15:00)	作業再開～帰りの会 (15:00～15:45)		
(月)		職員にツバ吐きを2回する。			一貫張り 1枚ずつ貼るよう促したがあまり取り組めなかった。	
(火)		Sさんが職員に怒っている？など興奮気味になった際に、外に出て植木鉢や上靴を投げたり、自転車を倒したり、職員にツバ吐きを行う。			一貫張り 興奮した後に職員に付き添われて作業を行った。	昼から出勤予定だったが、家でお茶漬けが食べなくなったとのことで、13時半過ぎの出勤になった。
(水)	作業前にB室に入り、Kさんにツバ吐きをしようとした。				一貫張り 一貫張りを促していたが、側に付き添っていなかったからあまり取り組めなかった。	ツバ吐きは当たらなかったが、Kさんがそれにキレてしまい近くにいる利用者をつねってしまうことがあり、Kさんはその後も何度かYさんを蹴ろうとすることがあった。
(木)					読書 本を読むと言って半日ずっと本を読みながら過ごした。	途中トイレにもこもることがあったので、開けて様子を見ることもあった。
(金)				職員に付き添われて一貫張りを始めてから、それにやきもちを焼いたのかSさんにちょっかいをかけられてツバ吐きする。その後騒いだOさんにもツバ吐きしたり止めた職員に噛みつこうとした。	休憩前まで読書、休憩後一貫張り作業を行った。	
(月)					読書 本を読むと言って半日ずっと本を読みながら過ごした。	トイレに行くことが多かったが寝ね落ちるいで過ごしていた。
(火)			ラジオ体操を始める時に職員にツバ吐きした。		読書 本を読むと言って半日ずっと本を読みながら過ごした。	
(水)					読書 時折作業を促すが、結局半日ずっと本を読んで過ごした。	出勤途中でアイスを食べたためか、出勤後すぐに2階に上がりトイレに入ることがあった。
(木)	OさんとSさんが言い合っただけでいた際にOさんの右手首に噛みついた。その後職員の左手首に噛みつき、Sさんの右腕にも噛みついた。				読書	噛みつきがあった後は、他の仲間が2階に行ってもらい難すようにして、A室で職員と過ごしていく中で落ち着いて過ごしていた。

↓ツバ吐き、物の破壊、噛みつきなどの行動のきっかけや条件、その行動による結果を記録。

日付	時間	場所	場面	直前の条件、きっかけ～したら、～があった(いた)から	行動	結果
例)		スーパーで買い物		お菓子の棚を見て	大声で泣く	お菓子を買ってもらえる
(月)	11時頃	玄関	作業中	見学の来客が多くて騒がしかったから？	見学に来た他事業所の利用者の方にツバ吐き。	謝ってもらった後付き添って様子を見ていく。その後は落ち着いていた。
(火)	11時半頃	1階作業室A	作業中	KさんがAの部屋に来たから？	Aの部屋に来たKさんにツバ吐き。	その後KさんにはBの部屋に戻ってもらったが、今度はYさんがBの部屋に行こうとしたため止める。その後は落ち着いた。
(月)	11時半頃	1階作業室A	作業中	突然大声を出して注意した後	大声を注意した際に職員にツバ吐き。	職員にツバ吐き後頓服を服用してもらおう。しばらくすると落ち着く。
(水)	13時半頃	1階作業室A	作業中	ウロウロしているさかたOさんを気にして？	ウロウロしてAの部屋に来たOさんに何度かツバ吐き。	その都度注意しながら様子を見る。他事業所から交流研修で職員が来ていたこともあったかもしれない。
(水)	12時半頃	1階作業室A	休憩中	ウロウロしていたOさんを気にして？	Aの部屋でウロウロしていたOさんにツバ吐き。	謝ってもらった後は落ち着いていた
(火)	12時半頃	1階男子トイレ、2階相談室	休憩中	衝動性が表れて？	休憩中にトイレに入り、鏡を割る。その後2階に行き相談室で花瓶を割る。	割った後は拾っていたが、また2階に行き割ってしまい、その後も割れるものを探している様子があったので家庭に連絡して早退の対応を取る。
(金)	12時前	1階作業室B	作業中	Kさんを急に気にして？	作業終了間際に突然隣の部屋に行き、Kさんにツバ吐き。	Kさんが怒ってしまいすぐに部屋に戻ってもらったが、Cさんも興奮状態になり、大声、噛みつき等行う。家庭に連絡して早退の対応を取る。昨日の健康診断のストレスがあったかもしれないとのこと。
(火)	11時頃	1階作業室B	作業中	Oさんを急に気にして？	作業中に突然Bの部屋に行ってOさんにツバ吐き	謝ってもらった後作業に戻ってもらいその後は落ち着く
(水)	10時過ぎ	1階作業室B	作業中	Kさんを急に気にして？	作業中にBの部屋に行って急にKさんにツバ吐き	利用者が怒ってしまったので2階で作業してもらおう。その後利用者には作品展搬入に同行してもらい離れてもらうようにする。
(金)	14時半	玄関	作業中	作品展見学から戻ってきたKさんが見えたから？	作品展見学から戻ってきたKさんに対してツバ吐き	その後交代で作品展見学に行ってもらい難す。戻ってからも利用者の怒りが収まらなかったので2階に移動してもらい利用者が帰るまで難す。

サポート事業とは

入所施設サポート

通所施設サポート

強度行動障がい支援の
まずはここ！

行動記録表

日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	
時間	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
8:00																														
9:00																														
10:00			●							▲				▲																
11:00										●				★								●				●	●			
12:00				●						▲		●		★							▲	●								
13:00																					■	▲								
14:00										●							●													
15:00																												●		
16:00																														
頓服服薬時間			朝	朝	朝	朝	朝			朝		朝	朝	朝			朝	朝	朝	朝	朝					朝	朝	朝	朝	
休み・遅刻・早退															半日			早退				早退								
その他																		機や花瓶を壊す		床利用者の断断			薬変更							

- ・・・つば吐き
- ▲・・・大声
- ・・・つかみかかりなどの他害
- ◆・・・事業所抜け出し
- ★・・・イタズラの行動
- ▼・・・物を壊す、捨てる
- ♣・・・ラジカセ等音量上げる
- ♣・・・その他

休み		A:	B:	C:	曜日比較								
		大声やツバ吐きなどあるがトラブルにはつながらず つながった状態	興奮気味になり、トラブルにつながった状態	本人がひどく他害するほどの興奮状態									
日	頓服服薬	朝	AM作業	昼	PM作業	帰り	備考	月	火	水	木	金	
1	日												
2	月						Kさん、Sさん、Cさんにツバ吐き	△					
3	火						Kさんにツバ吐き	△					
4	水					安定			△				
5	木					安定				○			
6	金						Kさんに大声、ラジカセを大音量					△	
7	土												
8	日												
9	月						通院のため休み						
10	火						Kさんにツバ吐き、ラジカセを大音量		△				
11	水						Wさんと職員にツバ吐き、ラジカセを大音量			△			
12	木						Kさんなどにツバ吐き。Kさんが怒って彼の髪を引っ張る				×		
13	金						安定						
14	土												
15	日												
16	月												
17	火	○					大声で泣く真似、その後興奮気味になりポスターを破ったり物を投げる。頓服服用。		×				
18	水	○					朝植木鉢を投げたり、人や物にツバ吐き。昼休み時にもツバ吐きやカセットテープを引っ張ったり、本を破く。頓服服用。			×			
19	木						KさんやOさんや職員にツバ吐き、ラジカセを大音量				△		
20	金						KさんやSさんにツバ吐き、Kさんが怒って彼の髪を引っ張る。					×	
21	土												
22	日												
23	月												
24	火	○					利用者や職員にツバ吐き。また昼休み時にラジカセを大音量にして泣き真似を始めてツバ吐きやつねり、また上履きや植木鉢などを投げたり、自転車を倒す。		×				
25	水						2、3回大声。ラジカセを大音量。				△		
26	木						利用者や職員にツバ吐き				△		
27	金						安定					○	
28	土												
29	日												
30	月						安定	○					

② あすたす (特定非営利活動法人 POPOLO)

▶ 事業所の基本情報

事業形態	就労移行支援 就労継続支援 B 型	定員	20人
------	----------------------	----	-----

▶ 対象者 (Dさん) の基本情報

性別	男性	年齢	20代前半
月の契約日数	23日	月の利用日数	23日
事業所の利用年数 (サポート事業利用開始日時点)		0年 (1か月)	

課題となっていた行動

- ・衝動的な感情を抑えることができず、他者へ攻撃的に振舞ってしまいます。
- ・相手や状況に合わせた行動が苦手です。
- ・物事の優先順位が分かりません。

▶ 通所施設サポートについて

サポート利用期間 1か月 (令和元年10月2日～令和元年10月28日)

サポートを受けようと思ったきっかけ

障がいを持つ人への偏見を無くしたく、一人ひとりと向き合い適切に支援し、その人にとって当たり前の日常生活を守っていくためにはどうしたらよいのかという思いが、スタッフの共通点であったためです。

サポートの経過

サポート事業開始第1回目会議で、Dさんの課題 (問題) となっている行動特性について情報共有を行いました。

協議の結果、Dさんは先の見通しが立たず、初期段階では複数人で作業をする
と不安になるため、①**複数の指示を出さない**、②**十分な作業スペースを確保する**、
③**施設側で作業量を調整し、一人でもできる作業や活動を増やす**といった対応を
行うこととしました。

全体指示後にDさんの動きが止まってしまったときには、個別に言語指示を行う方針を取りました。また、衝動的な行動が予想されるため、①**禁止や強い指示を出さない**、②**必ず支援員から指摘を行う**、③**課題 (問題) 行動後の指導はご本人の安定後に行うこととしました。**

アドバイザーからは、**支援員全員で情報共有を行い、上記のルール・対応を統一することによって支援体制を構築していくことを助言していただきました。**

その後、約1ヶ月間の様子を踏まえ、サポート事業は終了し、今後必要に応じ
て相談をする方針となりました。

サポートを受けて変化したこと

〈Dさん〉

- ・ Dさんの特性に応じた対応を行うことで不安が減り、安定した日中活動を行い、生活リズムの安定を図ることが出来ました。
- ・ **自分がこれから何をするのか、事前に分かりやすく伝えることで、不安感が減り、同様の手順を積み重ねることで別の場面でも落ち着いて過ごすことが出来るようになりました。**



↑初詣をしているDさん

〈スタッフ〉

- ・ サポート事業を通し、**Dさんだけではなく他の通所している利用者様にも応用可能な助言もあり、支援能力が向上しました。**
- ・ 利用者様のために、支援方法について考え続けること、思い続けること、これでいいのか、他に方法はないのか、と、これからもずっと試行錯誤しながら考え続けていきたいと改めて思うようになりました。



↑飲料の納品作業をしているDさん

サポートを受けてみて

強度行動障がい者という特別な支援が必要な方に対し、個別にどのような支援が必要なのか助言をいただけたことが支援を行う中で大きかったと感じています。

サポート事業がないと支援者から見て理解が及ばない対象者の行動に戸惑い、疲れ、孤立してしまいます。

サポート事業があるおかげで、**理解しづらい行動も本人が思いを伝えることが困難なときや不安、コミュニケーションのすれ違いから生じているのだと支援者の理解も進みました。支援方針も常に観察と記録を行うことで、ちょっとした変化に気付くことができ、ご本人により寄り添った、長所を引き出すことができるプランを作成することが出来ました。**

支援者側の立場としては、つい言い訳をして理由付けをしてしまうような事例がたくさんありますが、日々「考え続ける」ということを頭に置き、より適切に支援するための努力を続けていくことを大切にしていきたいと思えます。



↑レクリエーションで調理をしているDさん

▶ アドバイザーより

通所事業所を新しく利用するタイミングで関わるようになりました。

Dさんの特性、得意なこと、苦手なこと、支援方法などを利用する前にお伝えするところから始めました。

利用が始まってからは、課題となっている行動や対応に困っていることを確認し、支援の修正などを行いました。

Dさんが事業所を利用する前から関わることができ、情報の共有ができた事でスムーズに利用することができました。

↓ 調理実習後、お食事をしている利用者様の様子



③ もえり清水（特定非営利活動法人 もえり）

▶▶ 事業所の基本情報

事業形態	放課後等デイサービス	定員	10人
------	------------	----	-----

▶▶ 対象者（Eさん）の基本情報

性別	男性	年齢	特別支援学校 高等部
----	----	----	------------

月の契約日数	8日	月の利用日数	8日
--------	----	--------	----

事業所の利用年数（サポート事業利用開始日時点）	7年
-------------------------	----

課題となっていた行動

自宅でも事業所でも、一つ一つの行動に対して確認行動があります。自宅では保護者が確認行動に対し対応しないと、他害行動につながることもあります。当事業所においては、着替え・トイレ等の日常生活の行動をはじめ、当事業所で行う個々の活動においても、同様に確認行動が多くみられていました。

▶▶ 通所施設サポートについて

サポート利用期間 3か月（平成30年11月19日～平成31年2月18日）

サポートを受けようと思ったきっかけ

保護者の方からEさんの自宅での様子をお聞きし、何か良いサポートができないかと考えたからです。また、保護者の方からも自宅の様子も含めてアドバイスをいただきたい旨のお申し出がありました。

サポートの経過

まず、アドバイザーには、Eさんの通っている他事業所でEさんの普段の様子を見ていただきました。次に、ご家族の同意を得て、ご自宅での生活の様子を見ていただき、生活の動線や家庭での様子を確認いただきました。（当事業所においては、日程が合わず訪問できなかったため、聞き取りをしていただきました）

アドバイザーからは、①家庭において保護者の方によるEさんの行動への介入が多すぎるのではないかと、②介入せざるを得ない動線となっているのではないかとご指摘いただきました。

その対応として、**Eさんにわかりやすい要点のみを示したスケジュール表作成と、登校前・帰宅後の行動が明確になるようご自宅の動線の工夫**をしました。スケジュールに関しては、着替え・朝食・学校・放デイ・帰宅など、余計な要素のないものにしていただきました。

当事業所においても、**来所後の行動について、簡単で明確なスケジュールを作成し提示**しました。それでも、Eさんから確認行動があった場合は、スケジュー

ル表を指差しし、Eさんに行動していただけるよう促しました。なるべく言語のやり取りを少なくすることで、スケジュールが理解しやすくなるのではないかとアドバイスいただいたのでスタッフも言語支援を控えるようにしました。

他の事業所では、ご家庭と同じでスタッフの介入が多く見られるため、**自ら行動していただけるよう当事業所と同じようにスケジュール表を作成していただきました。**

サポートを受けて変化したこと

〈Eさん〉

簡単なスケジュールにしたこと、動線を明確にしたことにより、朝の支度や帰宅後の行動がスムーズになり、確認行動が少なくなってきました。当事業所においても、同じく**確認行動は軽減され、スタッフの指示も入りやすくなり行動がスムーズになりました。**

〈スタッフ〉

スケジュール表はなるべく保護者が作成したものに近いものにしました。また、言語による支援と視覚支援など同時に支援することはなるべく控えていますが、まだ同時に支援してしまうこともあり、その際、Eさんが混乱していることを再確認しました。

サポートを受けてみて

サポート事業を利用し、当事業所にとっては、Eさんや保護者の方の変化も感じることができましたし、**スタッフの意識改革をさせていただけたことが大きな収穫**だったと感じています。

また、事業所内では非常に落ち着いた行動ができていても、家庭内で問題行動があるケースも多いと感じています。今後、家庭支援に関しましてもご協力いただけると助かる保護者の方もいらっしゃるのではないかと思います。

ありがとうございました。

▶ アドバイザーより

放課後等デイサービス事業所2か所、居宅介護事業所（移動支援含む）1か所、学校、家庭それぞれから話を伺ったり、様子を見させていただいたりしました。

Eさんの特性から支援の方法を見直していただき、「一人でできる活動を増やす」「刺激の多いかわりを減らす」「ご本人がわかる方法でスケジュールを提示する」この3点を主に取り組むようにしていただきました。また、自宅、事業所での動線を見直していただき、シンプルにわかりやすくしていただきました。

定期的に事業所に伺い、ご家庭での様子も確認し、修正が必要なところは修正するようにしていただきました。

Eさんが自信をもって活動することができるようになり、課題となっている行動が少なくなってきたように思います。

家庭、事業所が統一した支援を行うことでEさんの混乱も減っていったと思います。

④ やんちゃりか (特定非営利活動法人 たからじま)

▶▶ 事業所の基本情報

事業形態	放課後等デイサービス	定員	10人
------	------------	----	-----

▶▶ 対象者 (Fさん) の基本情報

性別	男性	年齢	特別支援学校 高等部
----	----	----	------------

月の契約日数	4日	月の利用日数	4日
--------	----	--------	----

事業所の利用年数 (サポート事業利用開始日時点)	0年 (7ヶ月)
--------------------------	----------

課題となっていた行動

職員に対して、頭突き・アームロック・髪を引っ張る、他利用児を押すなどの行為があり、大きな声を発して室内を走る行動を他利用児が怖がっていました。いっどんな行動をするのか予測がつかない状況下、トイレ、着替えの同行が必要なため男性職員が主に対応していましたが、その職員への執着が見られました。

▶▶ 通所施設サポートについて

サポート利用期間 1年8か月 (平成29年1月25日～平成30年10月3日)

サポートを受けようと思ったきっかけ

Fさんの受け入れのため、利用開始前に、以前利用していた事業所、今回から利用する他事業所との事前の話し合いに参加し、情報共有を行いました。また、利用開始後も、学校も含めた関係機関の情報共有をしながら、数か月過ぎましたが、当事業所がFさんにとって安心して過ごす場所となっていないと感じていました。

対応している職員に対して、髪匂いの嗅いだり、腕を組んだりする行為や突然の頭突き、アームロックなどの他害がなくならず、職員は疑問や不安を抱えながらもマンツーマンの対応をしていました。Fさんの要望や気持ちがわからず、現状の対応、支援でよいのか悩んでいました。

サポートの経過

① 他害の対象となる職員はご本人から見えない場所にいる

② 頭を嗅ぐ、叩く、蹴る等の体に触れる行為はさせないよう離れる

を徹底しました。当初、他害の対象となっていた職員は、他利用児と外に遊びに行くようにし、Fさんは他害の対象でない職員と1対1で過ごし、イライラが始まった際は、他害ができないように職員はFさんから距離をとるようにしました。また、

③ できることは1人でやっていただき、不要な刺激を排除する（更衣室では一人で着替える等）

④ 理解している言語で端的に伝える（声掛けは単語で「指さし」で伝える等）

⑤ Fさんのクールダウンの場所を作ること

を実行しました。Fさんがイライラしてきたとき、自分からクールダウンの部屋に行くことができるように、普段から決まった場所に誘い、そこでは居心地良く過ごせるように支援しました。

サポートを受けて変化したこと

〈Fさん〉

①、②を実行することで、人に対しての頭突きなどの行為はなくなり、元々他害の対象となっていた職員への執着もなくなりました。

③、④の実行により着替え中分からなくなると更衣室のドアを開け、次に何をしたら良いかを教えてほしいことを伝えてくるので指差しで示しています。服やズボンを前後ろに着てしまうことがあります。直すことを伝えるとできるようになりました。

⑤クールダウンができる部屋は事業所に都合の良い場所がなく、更衣室に誘いましたが、Fさんが自分で決めた居心地のいい場所は、みんなが座るテーブルの一角でした。その場所で、シール貼り、色分け、ビーズなど自分で選んで過ごす時間が作れました。イライラしたとき、その場所でテーブルの脚を蹴ってイライラしていることをアピールしますが、我慢もできその場で落ち着くことができるようになりました。

〈スタッフ〉

逃げることも他害を成功させない支援の1つだということを知り、その場で対応しなくてはいけないという思い込みがなくなり、視野が広がり、支援に前向きになりました。

サポートを受けてみて

支援者が肉体的にも精神的にも健康な状況で利用者に関われる大切さを実感しました。困り事があるとどうしてもそこだけを見てしまいます。サポート事業を受け、自分たちが冷静になり客観的に観察できるようになれば、解決、良い方向に向かえると思いました。

▶ アドバイザーより

サポート事業でかかわる前から情報提供等がかかわりがありました。障がい特性、得意なこと、苦手なこと、支援方法などをお伝えしてありました。ただ、実際に支援している場面を見てもらったりしていなかったため、不十分だったと思います。

サポート事業でかかわった時は、課題となっている行動（問題行動）、スタッフが対応に困っている場面などを出していただき、考え方やどのように支援したらよいか、実際に支援している様子を見てもらうようにしました。

他害については、他害行動がでないように環境設定をしてもらうようにしました。Fさんの場合、他害行動の機能は特定されていたため、機能の説明をしました。他害行動が出てしまった場合、「力で抑え込まない」、「他害を成功させないように避ける、離れる」などをしてもらうようにしました。

コミュニケーションについて、言語でのやりとりが苦手でしたので、写真、カード、タイマー、指差しなどを使い、端的に指示、何をしてほしいのか、はっきり示すようにしてもらいました。私たちは、どうしても「説明して、理解してもらおう」と思い、多くの「はなしことば」を使ってしまいます。「はなしことば」で理解する事が難しい人にとってはメッセージをきちんと受け取ることができません。メッセージを受け取ってもらうためには、ご本人がわかる「ことば」（カード、文字等）で伝え、一度に伝えることができる「量」を知っている必要があります。

切り替えの場面や活動を終わらせることができないなど課題が残ってしまったこともありました。